

電気の女性現場監督誕生 「照明点く瞬間、楽しい!」



目標は電験三種!

石田 愛さん

AI ISHITA #21
株式会社ミワ電工
工事部



DATA

青森県立五所川原工業高等学校(電気科)在学中、第二種電気工事士の資格を取得し、第一種電気工事士および2級電気工事施工管理技術検定(学科)に合格。卒業と同時に2018年3月入社。現在、第一種電気工事士資格取得と2級電気工事施工管理技術検定(実地)の受験をめざし、実務経験を積んでいる。目標は電験三種合格。鯉ヶ沢町出身。

株式会社ミワ電工

業種 電気工事

本社 五所川原市大字漆川字袖掛153-14
tel.0173-26-5607 fax.0173-26-5608

URL <http://www.miwadenko.jp/>



念願の電気工事業界「早く一人前になりたい」

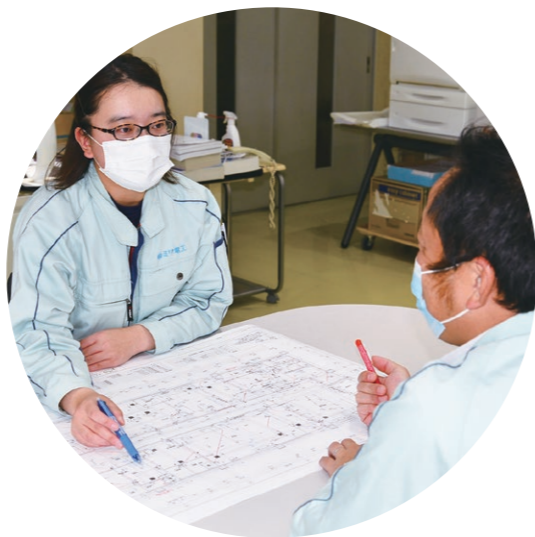
小学生の頃からあこがれていた電気工事業界に入り、全国でも数少ない女性の現場監督として日々奮闘しているのが、ミワ電工(本社・五所川原市)の石田愛さんです。入社3年目の若干21歳。

創業40年弱の会社ですが、女性の現場監督は彼女が初めて。18歳で入社後、数か月で現場監督の補助業務を任せられ、すでに複数の建築現場で業務をこなしています。

「電気スイッチを入れて照明が点灯する瞬間が楽しい。知識や経験が人よりまだ浅いので、早く仕事を覚えて一人前になりたい」と、目を輝かせています。

鯉ヶ沢町で生まれ育ち、夢を追って青森県立五所川原工業高校電気科に進学。在学中は第二種電気工事士の資格を取得し、第一種電気工事士と2級電気工事施工管理技士の学科試験に合格するなど、挑戦できる国家資格の課題をすべてクリアして卒業しました。学科に合格済みの2資格の免状は、実務経験など一定の条件を満たしたあと彼女に交付されます。

優秀で勉強熱心な石田さん。「次は1級電気工事施工管理技士と第三種電気主任技術者(電験三種)の資格がほしい」と前を見据えています。



設計室で新築図面のコンセントの位置や配線経路について上司と打ち合わせする石田さん(左)

揺るぎない信念 新たな資格にも挑戦

石田さんが目指す電験三種は合格率1ケタ台の狭き門。突破できれば同社初の快挙です。電圧5万ボルト未満の電気工作物の工事や維持・運用に関する保安の監督へと仕事の幅が広がるだけでなく、電気の専門家として高い信頼を得ることができます。

子どもの頃は「パン屋さん」になりたかったという彼女を、何が電気工事へと駆り立てたのか。きっかけは小学4年生の時。ある昼休み、学校の廊下で、設備のメンテナンスに来ていた電気工事士に目を奪われたのです。「作業服に腰袋(工具を入れる袋)を着けた姿がかっこいい」。そして「いつか私も」と心に決めました。

「電気工事士になりたい」。建設業と無縁だった両親は、彼女の意外な一言に驚きました。「生死にかかわる」とはじめはものすごく心配していましたが、小中高と信念を曲げない彼女の「本気度」が次第に伝わり、今では「仕事は残業してもしっかりやれ」と応援してくれています。

ミワ電工は、五所川原市役所新庁舎やつがる警察署など、多くの設備工事を手掛けている電気工事会社です。入社直後は住宅のコンセントやスイッチの取り付け工事などを教わり、その後、施工管理の資格を活かすため、監督補助業務に取り組むことになりました。

業務範囲はCADによる図面作成や必要な器具の集計などさまざまですが、特に発注者や職人さんとのコミュニケーションが重要になる仕事。ここで駆け出しの彼女に立ちちはだかったのが「経験の壁」でした。

「教科書の知識と現場の知識はまったく別物でした。電気だけでなく建築の知識も必要だし“たとえ話”や“言い回し”を覚えないと説明に時間がかかる」。知らない用語はメモを取って監督に聞いたり自分で調べたり。なんとか乗り越えようと、毎日ものが続いています。

完成後は倉庫になる予定の部屋でVVFケーブル束束束の整線作業の様子を確認する石田さん(中央)



石田さんが初めてメインで現場監督を受け持った認定こども園の新築現場

「真面目で努力家」「ミス少ない」評価上々

鯉ヶ沢町の自宅から50分かけて朝一番に出勤する石田さん。真面目で努力家な彼女を「頑張りすぎないか」と心配しながら見守るのは、営業部の島谷昌孝次長です。石田さんが高校生の時、インターンシップ生として同社を訪れたのが最初の出会いでした。積極的に質問する姿勢から、仕事への関心の高さと強い熱意を感じたそうです。

「この若さで監督補助をこなすのは男性でも異例だし、成長のスピードが他の人に比べて速い」と島谷次長。同僚の現場監督からも「彼女の図面は正確でミスが少ない」と評価は上々です。

この日取材で同行したのは、彼女が初めてメインで現場監督を受け持ったという「認定こども園」の新築現場。倉庫になる予定の部屋に入った石田さんは、図面を見ながらコンセントとスイッチの場所が合っているか、配線が器具に正しくつながっているかなどについて、手際よく確認していきます。

実は、夢だった電気工事士ではなく現場監督をしているのは資格を活かすのもう一つ、別な理由がありました。「例えば照明器具を天井に取り付ける際、持ち上げたままの姿勢をキープすることが大変で。自分には向いていないと思いました」ときっぱり。甘くない現実もしっかり受け止め「現場監督だって電気工事の大事な仕事」と前を向きます。「楽なことばかりではないけど、自分で選んだ仕事なので楽しい。もっと現場の知識を身に付けて、この先もずっと続けていきたい」。若き現場監督の挑戦は、まだ始まったばかりです。



【写真左】キュービクル内の電線接続作業を確認する石田さん(左) 【同右】天井を取り付ける前に、完成した電気設備の写真を撮る石田さん

ひとことメッセージ

ステップアップを応援

石田さんは、弊社初の女性現場監督です。入社してすぐに大型現場での作業を経験し、その後は彼女が学生時代に取得した施工管理の資格を活かすために、新築のつがる警察署で監督の補助業務を行い、CADを使った作図や、図面から必要な材料を集計する作業、現場での打ち合わせなど様々な業務を経験してきました。現在は、認定こども園の現場管理業務を担当してもらっています。

弊社では技術者の資格取得のための講習会などにも力を入れ、次のステップアップを目指す人の応援をしています。そして、これからは、多様化する働き方に柔軟に対応し、時代に合った働きやすい職場環境に向け取り組んでいきます。

株式会社 ミワ電工

取締役営業部次長 島谷 昌孝

